

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービスの意義を職員全員が確認しあい事業所と地域との関係を理念に作られている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員の目につく場所に掲げ常に認識し、心がけ、取り組んでいる。	
3	<p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族には入所時説明している。地域の方々には行事参加時説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩・買い物に出かけた時、近隣の方々との挨拶をしたり話されたりしている。また畑で獲れた野菜・果物・花を頂いたり良い付き合いがある。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町の行事・地域での活動参加また場所提供しながら交流の機会があり楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方と楽しめる慰問のを受け入れ、活動の場を設けたり、実習生の受け入れ等取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はケア会議にて報告し、改善点の話し合い前向きに実践に繋がる努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組み状況を報告し、意見交換を通しサービス向上に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	作品作成した物を庁舎に飾らしてもらったり情報交換させてもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象者がいないが制度についての勉強会を開き知識を得るように取り組んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等実施し理解に努め取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、家族の質問、話等を聞きながら説明理解して頂き同意をして頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・意見箱を設置している。家族が意見等気軽に言ってくれる様雰囲気作り対応を心がけている。アンケート用紙を送付し家族の意見を頂く様にしている。苦情解決改善会議</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の買い物、お小遣いを使用する際は必ず家族へ連絡、了解を得てから使用する。月に一回家族へ金銭の報告を送る。心身の変化のあった場合は必ず家族へ連絡を入れて報告する。面会時生活状況等説明また生活風景の写真等見て頂き理解して頂く。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には必ず状況報告しまた家族の話等聞きながらその場で対応する様心がけている。家族の意見等についてはミーティング・会議等で話し合い反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>チームケア会議・ミーティング等で意見交換している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日程に応じた職員の配置、起床時、就寝時の職員の配置、夜間の緊急時対応体制整えている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しい職員が入った際は、利用者、家族へ紹介馴染んで頂く様にしている。離職の際は引き継ぎ等利用者への対応おろそかにならない様、最善の努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での施設長講師での研修会・他外での研修会参加しその後ホームにて報告勉強会を行なっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホーム見学、意見交換等頂きながら質の向上に励んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>他事業所との交流会や法人内での親睦の機会を持ち取り組んでいる。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回人事考課(自己評価調書)実施。施設長との面談があり話し合える機会を設けている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用申し込み、調査時面談で生活状況を把握する様努めている。本人に会って心身の状態や思いを聞き受けとめる努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が気にせず、ゆっくり話し合いができる様時間を取り対応してあげる。入所申し込み調査時、説明時に事前に話し合いをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は状況等を確認し、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他事業所のサービスに繋げる等の対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学していただく事から始め、スタッフが自宅に出向き調査、ホーム説明をしながら理解して頂き安定感を持って頂くようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思い、不安、喜びを知る様努めている。また利用者は人生の先輩である為、普段の生活の中で教えて頂きそういった場面、環境を持ち工夫し努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、生活上で気付いた事や出来事の情報共有し、家族と共に本人を支えるように支援している事を伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い、生活状況をこまめに報告し、本人の状況を知って頂く。家族の思い、状況を見極め外出、外泊をすすめたり、行事参加を通しより良い環境の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より利用している美容院を引き続き利用したり、知人、友人等に訪問して頂いたり、電話で話したり継続的な交流ができる様働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者心身の状態や気分で感情変化する事もあるので見守りながら毎日のお茶や食事の提供時間・活動等を通して職員も一緒に楽しく過ごせる時間の場面作りし利用者同士の関係が円滑になる様働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>他事業所へ移られた方にも利用者と面会に行ったりして交流を持っている。家族にも気軽に立ち寄って頂きお茶を飲みながら話を聞いたりしている。</p>	
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、声かけ、把握出来る様に努めている。またご家族や関係者より情報を得るようにしている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>調査訪問時、契約時に、ご本人・ご家族・関係者などから聞き取るようにしている。利用後も、本人・家族にどんな生活をしていたのか聞いている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの生活リズムを把握し、本人の出来る能力を発見し、その人の全体像を把握する様努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の思いや要望を聞き入れ、反映させるようにしている。また、職員全員で意見交換、カンファレンス行なっている。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員が情報を確認し、家族・本人の要望を取り入れつつ期間が終了する前に見直し、状態変化した場合には終了前であっても検討見直し行なっている。介護評価すると共に、見直しを行なっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、身体状況・生活状況及び業務日誌で日々の暮らしの様子がわかる様記録している。いつでも職員全員が確認できるようにしている。個別記録を元に介護計画に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じて通院・送迎等必要な支援を柔軟に応じ個別に満足して頂くよう努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム周辺の草刈・地域青年会・民生委員・ボランティアの方々の受け入れ、地域の方々との共有できる行事を取り入れ交流を図りながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町で開催される行事参加して頂き、また図書館等を利用したりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等に参加して頂き情報交換協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院はご本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行することで利用契約時に説明同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	治療が必要な利用者は専門の医師の診断処方されている。また、その都度、医師との相談ができ、連携がある。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特養ホーム看護師へ利用者状況提供し、日中変化がある場合は相談・指示を頂き支援している。また健康診断についても施設全体にて連携を取りながら進めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は情報を医療機関へ提供し、家族とも情報交換しながら、また、定期的に病院へ出向き本人の状態確認・回復状況を把握し速やかな退院支援へと結び付けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特養と併設であるので家族との話し合いにより特養入所を希望されたり、また身体変化によりかかりつけ医・家族と話し合いを持ち方針を決めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度になった場合ホーム内でできる事、出来ない事を見極め家族了解の元できる範囲内であるべく対応する様支援しているが、ターミナルについては職員研修参加・勉強会はしているがホームでは医療連携も取れておらず設備等についても環境は出きしていない。	○	職員ターミナルについての知識を勉強しながらまた医療連携について課題であるが環境作りに努力して行く。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅・他事業所へ移動された場合、これまでの生活状況・支援の内容・注意事項について情報提供し、きめ細かい連携を心かけている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に職員の意識向上を図ると共に、日常の中で職員同士指摘しあったり、上位者より指導を行なって頂き、プライバシーを損ねないよう対応を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者個々に合わせた声かけをし、ゆっくり時間をかけ、本人の意志・想いの聞き取りをしている。また、個人に合わせた説明をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・散歩・ドライブ・台所の手伝い・掃除等、一人ひとりのその時の状態や思い、体調に配慮しながら、できるだけ個別に合わせた説明をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○見出しなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせて支援し、行事など日頃からおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。本人の馴染みの理美容院へ連れて行き、希望にあわせたカットをしてもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備・盛り付け・後片付け等、利用者と一緒に、調理方法のアドバイスを受けながら日々行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者のおやつ嗜好に合わせて工夫しながら時には一緒に手作りしながら楽しみながら食べやすい物を提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しながらトイレでの排泄を促している。またその事によりリハビリパンツ使用していた方も下着とパット対応と改善出来ている。パット使用もその人にあった物を使用している。前年に比べオムツ外し対象者が増え良い傾向にある。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者仲の良い同士自由に入浴して頂く等楽しい入浴時間の提供、また身体状況に合わせた入浴時間の提供。車椅子利用者の方の入浴対応についても安全確保と時間を設け対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動・仕事・手伝い等促し生活リズムが整う様に努めまた体調・希望を考慮して個々に合った休息ができる様支援している。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で得意な事(畑仕事・料理・掃除・縫い物)出きる事をお願いし利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また感謝の言葉も忘れず伝えながら進めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり管理している。外出・買い物時には本人に任せて買い物社会参加している。自己管理出来る人は自己管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩・ドライブ・買い物へ出かけている。また家族と気軽に外出・外泊に出かけられている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族・職員の協力にて外出・外泊・墓参り・外食等可能な限り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じていつでも電話使用できる環境を整えている。また家族・友人からの手紙等も届いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず仕事帰りや家族の都合のいい時間いつでも訪ねて頂ける様配慮している。また他利用者に気兼ねなく過ごせる様配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会参加し勉強会等で職員共有認識を図っている。現在1名該当しているが家族には十分な説明し同意を得た月1回職員全員で見直し会議を開き改善出来る様取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員見守り方法を徹底し、一人ひとりの日々の精神状態を把握していることで日中カギ等かける事なく自由に暮らしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	同じ空間での記録作業を行い状況の把握に努めている。夜間は居室が見通せる場所での待機見守り、巡回等で利用者の様子観察確認しながらその都度対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて保管管理の必要有無ごとに分けて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態から予測される危険を検討し、職員共有認識を図り事故防止に努めている。事故が発生した場合は速やかに事故報告書作成、対策、家族説明と報告をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急救命講習会を実施習得するようにしている。緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と共に避難訓練を行なっている。併設施設でホーム全体の訓練時地域の方の協力を得て訓練を行なうようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者に対するリスクを把握しており、家族へ説明同意を得ている。また自由な環境や暮らしが利用者にとってプラスになる為家族に理解と協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や表情も見逃さない様早期発見に取り組んでいる。(午前9時30分・午後2時バイタルチェック)変化がある纏々場合にはバイタルチェックを行い記録を残し状態に応じた対応を行なっている。管理者へ報告すると共に職員感で情報を共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ケース整理し、職員が内容を把握出来る様にしている。また服薬確認も行い確実な服薬を行なっている。薬処方、用量が変更されたり、本人の状態変化が見られた時は記録を取り医療機関との連携を図れる様にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・おやつ・水分等自然排便を促すように食材を提供している。また散歩・家事・活動等で身体を動かす機会を設けている。便秘傾向の強い方に関しては医師との連携を図り下剤処方をして頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き、うがい等を行なっている。必要に応じて介助し口腔ケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分の摂取状況を把握している。食事・水分を確実に摂って頂く為とろみ・ゼリー・キザミ食の必要な方等状態に合わせた食事提供をしている。栄養士に定期的に食事メニューの確認アドバイスを頂いている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関して研修会・勉強会を行っている。早期発見・早期対応に努め、また家族利用者家族の同意を得て利用者・職員インフルエンザ予防接種を受けている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>布巾・まな板・漂白毎日行なっている。調理器具や台所水周り清潔を保つ様努めている。食材は買いためせずこまめに購入している。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>明るい雰囲気になるよう花を生けたり、玄関先にプランターを置いたり季節感を出している。また手作りの装飾品を飾ったりしている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアや廊下の飾りつけや置物の配置等利用者と一緒に考え居心地の良い雰囲気作り工夫している。茶碗を洗う音・ご飯の匂い・包丁の音・テレビの音等五感や生活感を感じる事が出来る様工夫している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール内にテーブル席・ソファーとテーブルを用意し、和室コーナーには座卓を置き小上がりに腰掛け話しをしたり出きるスペースを作っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使ってきた物や、馴染みの物を持って来て頂き使用する事で今までの生活を同じ様に過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・季節適温に気をつけ温度調節・室内の換気に努めている。気温に対して利用者の衣類等にも気を付けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりの設置・ベットの配置をし安全確保と自立の配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとってわかりにくい事、やりにくい事を追求し話し合い状況に合わせた環境整備に努め見守りしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり畑に野菜を植えたりして利用者さんが常に見たり、触れたり出きる様環境作りしている。テラスでの日光浴・外の風景を見たり楽しめる様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしてる	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・地域の行事・活動参加、またホームでの行事等に参加して頂き交流の機会がある。・ホームの前には季節の花・野菜が植えられており季節感を味わい自分達で作った野菜を食べられる。・利用者さんの個々の持っている能力を行かせた生活が送られるよう支援している。・季節感を取り入れた行事の設定